

ふる里の歳時記 (113)

写真と文：厚川 小一（エッセイスト）



緑したたる

友垣の崩れて久しやえごの花 厚川 小一

林中に雨脚見えずえごの花

夏目英子

すすけた石油ランプが吊されただけの中で育った私は、シャンドリアなどという洋風の吊し電灯は知る由もなかったが、えごの花が満開になり、道に垂れ下がるのを、今では山のシャンデリアと勝手に呼ぶようになった。この花の下を毎年くぐり抜けるが、満開時は背の低い私の頭にふれるほど垂れてくる。

えごの木は株立性で、乾燥しない土地では、街路樹に植えられている。この株立が私たち少年の目に止まり、枝の反り具合を選んで、よく伐った。木刀づくりをやったのである。木刀は学校の裏門に隠しておき、帰りに腰に差し、宮本武蔵を名乗ったりしたが、それはそれはいい気分であった。

また、チャンバラのやり方を教えてくれる上級生がおり、田舎芝居の真似ごとまでするようになった。チャンバラは切られ役が難しく、よく教えられたが、その役はほとんど私で、身体を半身回して倒れるのが、なかなかうまくいかなかった。

木刀といえど頭に当たると瘤

ができることもあり、危ない遊びだったが、やめることはなかった。そのえごの木で削り出した木刀を振った先輩も長じて軍刀を吊り、南の戦線から帰らぬ人となってしまった。一本のえごの木につながる夢の先が、軍人に伸びたのである。

末永悦代

春の彼岸明けの三月二十四日、中央公園の西通りに車を置き戻つてみると、燕が三十数羽地面すれすれに飛び回っていた。雨模様寒い中で、地面の餌を探しているようであった。私の膝下あたりを折返すと胸の白さが際立ち、はるばる南の国から渡ってきた疲れも全く見えなくなり、きれいな飛び方をしていた。

また、チャンバラのやり方を教えてくれる上級生がおり、田舎芝居の真似ごとまでするようになった。チャンバラは切られ役が難しく、よく教えられたが、その役はほとんど私で、身体を半身回して倒れるのが、なかなかうまくいかなかった。

家持は雁を主題にして燕を詠

んでいるが、和歌では雁を主としていたようである。家持の歌も「帰る雁を見たる歌二首の前書きをしている通り雁の歌である。燕がほとんど傍らに寄せられたのは、仏教思想の影響下にあった中世の人たちの心の表れ」と一部の学者は説いている（講談社版歳時記）。つまり、燕は虫を食べて殺生をする大群生で、いかにも下品に見られたのである。

逆に俳諧では、庶民的な活気のある飛び方が好まれ、初夏の季語として定着。歳時記には例句が非常に多く詠まれている。たまたま今年、偶然にその渡りの輪に入った私だが、膝下を三十数羽が転じ飛びするのは初めてで、間もなく西方に移って行った。つばめ返しとは、このことである。

佐々木小次郎の剣法がそれに当たるようで、今回はえごの木刀で宮本武蔵の名が登場し、燕で佐々木小次郎が、意図して書いていたわけではないが結びついてしまった。ものを書くとき、このような機会が自然と生まれてくるので、たのしい。

ひとりごと From editors

▼今月の広報おうらを見て、驚いたかたが多いかと思ます。近年、目まぐるしく増大し多様化する情報やそのスピード化に即応していくため、6年ぶりにリニューアルしました。基本的には、今までの広報誌とほとんど変わりませんが、皆さんに伝えたい大切な情報をより分かりやすい誌面にと思い心掛けて編集しました。▼これからも邑楽町の皆さんから親しまれる広報誌、毎月楽しみにしてもらえらる広報誌、をいつも考えながら編集していきます。今回のリニューアルにあたり、何かお気づきの点やご意見、アドバイスなどがありましたら、広報おうら編集部までお気軽にご連絡ください。（藤）

まの風景

桜が咲き誇る長柄神社のエドヒガン



Photo 原田隆雄（記録ボランティア）



広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成22年5月号 No.5224

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692（住所記入不要）

☎0276-88-5511（代表）

☎0276-47-5007（企画課直通）

☎0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail kohog@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>